

鹿児島県の自然環境を活用した野外教育プログラム開発に向けた基礎的調査 2012年度 実施状況報告

坂口俊哉*, 北村尚浩*, 中村夏海**, 榮樂洋光**

I. 緒言

平成8年、青少年の野外教育の振興に関する調査研究会は、第15期中央教育審議会の第一次答申をうけて、野外教育が「生きる力」を育成することに対する期待を示した。また、「野外教育プログラムの充実と開発」のために、「野外教育プログラムの目標の明確化」、「多様な野外教育プログラムの提供」、「現代的課題に対応したプログラム開発」、など6つの方向を示すとともに、野外教育指導者の養成と確保を課題として提示した。

これまで、国内の野外教育活動は、主に「自然の家」などの施設が提供するサービスやプログラムに依存した形で進められてきたが、プログラムのマンネリ化も指摘されており、新たなプログラムの開発が求められてきた。特に、公共の施設で提供されるプログラムは、小中学生など若年層を対象としたものが多く、大学生等の年齢層に応じたプログラムの開発も求められる。

大学生を対象とした野外教育では、野外教育を体験するだけでなく、野外教育活動の指導技術、プログラムの企画や開発を目標とした展開が求められる。

そこで本事業は、本学における野外教育プログラムの充実を図ることを目指すものである。具体的には、夏季山岳レジャー・スポーツ実習など野外活動実習の内容を発展させるための基礎資料を収集し、実習の内容や実施方法について検討した。最終的には有志学生参加によるモデルキャンプの企画・実施を計画している。また本事業は、生涯スポーツ実践センターと海洋スポーツセンターの共同作業によって新たな野外教育プログラムの開発を行う点で、これまでになく新たな取組であった。

II. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、平成24年度から25年度の2カ年間に渡って実施する計画である。平成24年度は、鹿児

島県内の「野外活動施設とプログラムの視察調査」、平成25年度は「学生有志によるモデルキャンプの実施」を計画した。本稿では、平成24年度に実施した「甕島周辺の野外活動施設とプログラムの視察調査」の概要について報告する。

III. 甕島調査の概要

甕島列島の地理的条件

甕島列島は東シナ海に位置し、鹿児島県薩摩川内市に属する列島である。上甕島、中甕島、下甕島の主な3島と、付属するいくつかの島々から構成される。

里陸繋砂州（トンボロ）や、長さ約4 kmにもわたる砂州とラグーンが形成された景勝地としても知られている。また世界で7カ所しか確認されていない光合成細菌「クロマチウム」が生息する貝池など、地理学的にも生物学的にも特色のある土地である。

視察日程

平成24年度の調査は、甕島の自然環境を活かした野外教育プログラム実施のための基礎資料の収集を目的として、平成24年10月6日から10月8日（2泊3日）の日程で実施した。この調査では、島内のレクリエーション施設の視察、地形の確認、実施可能な野外活動の検討を行った。視察日程は表1に示した通りであった。

表1. 視察日程の詳細

10月6日	
7:00	大学集合出発
8:00	垂水港出発（フェリー）
8:40	鴨池港到着
10:00	串木野港 到着
11:25	串木野港 出発
12:25	甕島 里港 到着
13:00	昼食

* 生涯スポーツ実践センター

** 海洋スポーツセンター

14:00	視察1：上甌島市の浦キャンプ場，視察2：上甌県民自然レクリエーション村，視察3：浦内小学校，視察4：長日の浜，視察5：かのこ大橋方面
17:00	民宿へ移動
19:00	夕食
20:20	ミーティング（次年度のプログラムについて）
22:00	消灯
10月7日	
6:00	起床
7:00	朝食
9:00	海辺のプログラム企画のための視察(マリンスポーツ実施) 山のプログラム企画のための視察(トレッキング実施)
12:00	昼食
13:00	海辺のプログラム企画のための視察(マリンスポーツ実施)
17:00	民宿へ移動
19:00	夕食
20:10	ミーティング（実施プログラムの検討，施設・設備・備品の準備について）
22:00	消灯
10月8日	
6:00	起床
7:00	朝食
9:30	里港出発
10:45	串木野着 大学へ向けて出発
14:30	帰校

視察スタッフ

教員3名，大学院生3名，学部生8名 計14名であった。

IV. 視察と評価

初日，二日目ともに島内のレクリエーション施設を

中心に視察を行った。また，視察した施設の利用可能性について検討するためのミーティングを夕食後に行った。

初日のミーティングでは，活動場所として最も魅力的であった場所を参加者全員から挙げてもらい，次年度のモデルキャンプ実施に向けた検討を行った。候補地として挙げられた場所と活動内容については後に説明する。翌日には，参加者がもっとも利用の可能性が高いと判断した場所で，実際に活動を行った。

これらの視察の内容を元に，二日目の夜には実施プログラムの内容と必要な備品の調達，地元との関係調整に必要な事項などについて確認と検討を行った。

視察場所とその評価は以下の通りである。

視察場所と視察記録

市の浦キャンプ場

メリット

- 海がきれい，景色が良い。
- カヤックなどではサーフからエントリーしやすい。
- ダイビングスポットとしてもよい。
- 市街地からの距離が離れているためキャンプファイヤーを実施しやすい
- テントサイトがあり宿泊が可能。
- 利用者も少なく，シーズンによっては貸し切り状態かもしれない。

デメリット

- トイレの管理が不十分。
- 漂流物（ゴミ）が多い。
- 営業期間が短い。
- 岸沿いの道路がないため，緊急時には船などのアプローチが必要か。



写真1. 市の浦キャンプ場



写真2. 長目の浜

長目の浜

メリット

- 池の自然観察など生態系の違いを観察するのが面白そう.
- 景色がよい.
- 観光スポットとして紹介されているので活動に利用したい.
- 浜にそってカヤックをしてみたい.
- 浜にアクセスするポイントが数カ所あり, コースバリエーションを作られそう, 活動に利用できそう.
- 海鼠池, 貝池などに潜ってみたい.
- 人がほとんどいないため, 気兼ねなくプログラムに利用できそう.

デメリット

- トイレがない.
- 漂流物(ゴミ)が多い.
- 展望台から浜へのアクセスがわかりにくい.
- ビューポイント以外の情報が少ない.

- 沖合に生けすがあるため, 会場の利用には注意が必要か.

浦内小学校

メリット

- 安価な宿泊場所として利用が可能かもしれない.
- 雨天時のプログラムで利用が可能かもしれない.
- 水, トイレなどが使えそう.
- オリエンテーリングなどでエイドステーションとして利用が可能.

デメリット

- 特にこれとって景観がよいわけでもない.
- 管理がされているのか疑問.

甑県民自然レクリエーション村

メリット

- 食事のための炊事場など, 設備が整っている.
- 宿泊を伴うカヌーツーリングなどで拠点として利用できる.



写真3. 浦内小学校



写真4. 甌県民自然レクリエーション村

- 海がきれい.
- 湾になっているので、比較的安全ではないか.

デメリット

- 人工的な構造物が多く、自然のなかにいる感じがしない.
- 海岸沿いの遊歩道の破損・劣化がひどすぎる.
- 村内の遊具にも破損劣化がみられる.
- 営業期間が短い.
- バンガローでの宿泊は夏場に暑そう.
- テントサイトのファイヤープレイスがテントと近すぎる.
- 木陰が少ない.

かのこ大橋

メリット

- カヌーなどで比較的エントリーがしやすい.
- 磯の自然観察などで利用できそう.

デメリット

- 干満による潮の流れかが早いのではないか (確認

の必要あり)

- 大型バスでは停車する場所がとれない.

V. 野外活動実施

初日の視察とミーティングでの検討の結果、視察二日目は、市の浦海水浴場でのマリンスポーツ（シーカヤック、スタンド・アップ・パドル、スキングダイビング）と、遠目木山から嶺の山にいたるルートでのトレッキングを実施した。

視察に参加した学生は2班に分かれて、それぞれマリンスポーツ班とトレッキング班を構成した。マリンスポーツ班は、午前午後ともマリンスポーツを実施したが、トレッキング班は、午前中にトレッキングプログラムを終了し、午後からマリンスポーツを実施した。

VI. 報告書の作成

帰校後、参加者それぞれが、視察内容をまとめたレポートを作成した。学部生に課されたレポートのテーマは、次年度に開催を予定しているモデルキャンプの



写真5. かのこ大橋

企画書作成であった。企画を立てるにあたって、3泊4日のキャンプを想定し、その中で実施される活動プログラムの計画を立ててもらった。また、大学院生には、学部生の立てた企画内容について、実現の可能性も考慮して、改善策を提案してもらった。

学部生には、以下の内容を示した。

最終レポート課題

内容: 3泊4日のキャンプ計画を立てる。その期間に実施する活動プログラムの計画を以下の状況設定で行う。

想定する状況

1. 参加者: 大学1・2年生 20名
2. 活動内容: 甌島の自然環境を利用した野外活動プログラム
3. スタッフ: 必要な人数を明記(多くても10名程度)。
4. 時間: 午前のみ、午後のみ3時間のプログラム。あるいは、全日、オーバーナイトのプログラムでも可。
5. 備品: 必要に応じて購入・運搬などは可能
*自分で参加してみたいと思える楽しい企画を考えること。

レポートに必要な内容

1. いつ: 午前・午後。あるいは全日。
2. 場所: 甌島のどこで、どの場所で。
3. 備品: 必要な備品のリスト
4. スタッフ: 必要な人員(人数、免許などの要件)
5. タイムスケジュール: 導入からプログラム終了までの流れと時間配分。

なお、本事業にかかる経費の一部は、薩摩川内市「こしきアイランドキャンパス事業」の助成を受けて実施された。そのため、上記のレポート内容をもとに、報告書を作成し、薩摩川内市へ提出した。

VII. 今後の課題

平成24年度の視察をもとに、平成25年度はモデルキャンプを実施する予定である。実施の規模については、参加学生20名程度、スタッフ10名程度の予定である。今後は、日程の確定、活動プログラムの企画、現地への移動手段の確保、宿泊場所の確保、食料計画、などの作業がある。

モデルキャンプの実施に向けて、スタッフの募集、参加者の募集等が最初の課題である。特に、実施時期の決定が、参加希望者の人数に影響する事が予想される。鹿屋体育大学では、クラブ活動、大会などの時期を考慮した決定が求められる。

また、モデルプログラムを企画する段階で、キャンプの目的をどこに設定するかが大きな課題である。目的のはっきりしないキャンプは、野外教育活動としての質が保証されず、レクリエーション活動となってしまう。企画の段階から、教員がどのように関わっていくのかが教員の課題となる。

本事業の一部は薩摩川内市「こしきアイランドキャンパス事業」及び「鹿屋体育大学重点教育プロジェクト経費」の助成を受けて実施した。この場をかりて、厚く御礼を申し上げたい。

参考文献

- 佐藤豊, 佐野裕, (2004) 高等学校における野外教育のあり方を求めて—「総合的な学習の時間」の活用—, 横浜国立大学教育人間科学部紀要 I, 教育科学, (6) 101-119,
- 文部科学省, (1996) 「青少年の野外教育の充実について」, 青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/003/toushin/960701.htm (アクセス日: 2013年12月10)